

第 75 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(令和 5 年 5 月調査)

～景況感は引き続き足踏み状態。
先行きは依然として慎重姿勢～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が 0.8 (前回調査比 4.6 ポイント上昇) と 2 期ぶりに改善し、2 期ぶりにプラスに転じた。「各種 D I 値 (前年同期比)」をみると、「売上高」は小幅ながら悪化、「営業利益」は改善、「資金繰り」はほぼ横ばいとなり、「人員・人手」はプラス幅が縮小した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、建設業が▲18.6 (前回調査比 5.8 ポイント上昇)、製造業が 3.3 (前回調査比 4.2 ポイント下落)、卸・小売業が▲3.0 (前回調査比 2.2 ポイント上昇)、サービス業が 20.2 (前回調査比 16.7 ポイント上昇) と、製造業は悪化となった一方、建設業、卸・小売業、サービス業は改善となった。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、村山南部が▲3.9 (前回調査比 1.9 ポイント上昇)、村山北部が 6.3 (前回調査比 5.5 ポイント下落)、最上が▲5.2 (前回調査比 0.2 ポイント上昇)、置賜が▲1.8 (前回調査比 7.7 ポイント上昇)、庄内田川が 2.5 (前回調査比 1.4 ポイント下落)、庄内飽海が 6.9 (前回調査比 22.9 ポイント上昇) と、村山南部、置賜、庄内飽海は改善、村山北部と庄内田川は悪化、最上はほぼ横ばいとなり、庄内飽海はプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲7.1 (今回調査比 7.9 ポイント下落) と 悪化の見込みとなっている。

【特別調査】

- **夏季ボーナスの支給動向**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 61.1% と、前年に比べ 0.2 ポイント低下したものの、引き続き 6 割を上回った。
- **春季以降の賃金改定動向**について尋ねたところ、賃上げを実施する (した) 企業の割合 (「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」) は、全業種で 61.7% と前年に比べて 9.4 ポイント上昇し、6 割台となった。
- **新型コロナウイルス感染症の事業への影響**について、事業活動全体における平常時 (コロナ禍前) の経営状況を 100 とした場合の今年度の業績見通しをたずねたところ、全業種でみると「80～100」が 63.9% と最も多く、次いで「50～79」が 16.2% となっている。

令和 5 年 6 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別DI値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	5
③	卸・小売業	7
④	サービス業	9
3.	地域別の動向	11
(1)	地域別の概況	11
(2)	地域別DI値の動向	12
①	村山南部	12
②	村山北部	13
③	最上	14
④	置賜	15
⑤	庄内田川	16
⑥	庄内飽海	17
II.	景気の天気予報図	18
III.	特別調査	19
1.	夏季ボーナスについて	19
(1)	支給予定動向	19
(2)	支給予定額	21
2.	春季以降の賃金改定動向について	23
3.	新型コロナウイルス感染症の事業への影響について	24
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>		25
<参考資料 II : 調査の概要>		25

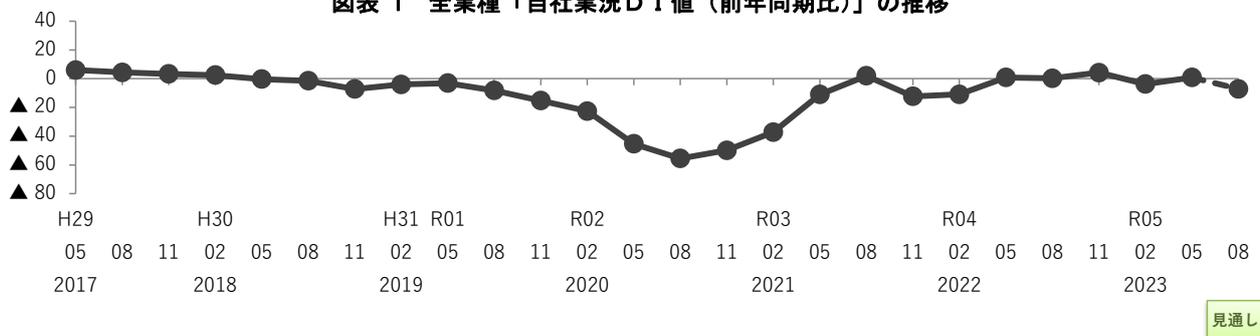
I. 県内企業の業況

1. 概況

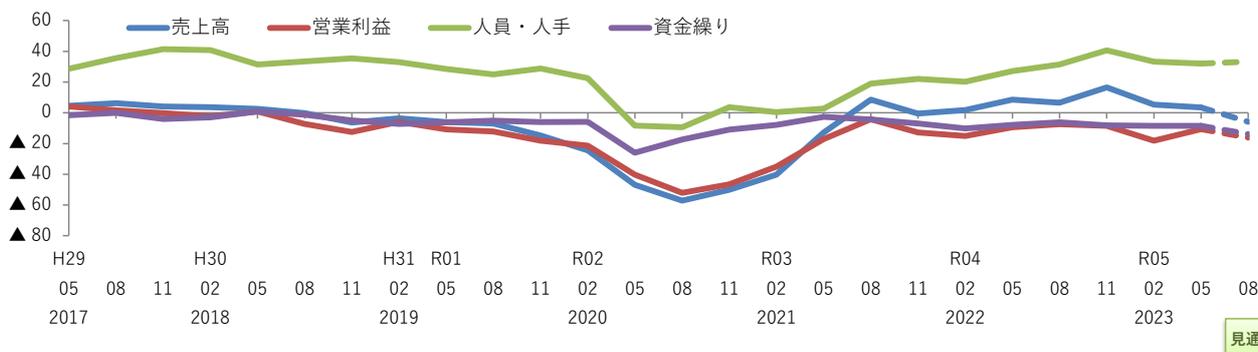
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が0.8（前回調査比4.6ポイント上昇）と2期ぶりに改善し、2期ぶりにプラスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」は小幅ながら悪化、「営業利益」は改善、「資金繰り」はほぼ横ばいとなり、「人員・人手」はプラス幅が縮小した。経済正常化に伴う消費の持ち直しから、一部では業況改善の兆しがみられるものの、引き続き企業にとってコスト高は大きな負担となっており、総じてみれば景況マインドの改善には停滞感がうかがえ、足踏み状態となっている。

先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲7.1（今回調査比7.9ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。新型コロナウイルスの5類移行によって回復への期待感が持たれる一方で、ウクライナ情勢や海外経済の動向は継続して注視していく必要があり、慎重姿勢は今後も続くものと思われる。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 04. 05 (n=406)	0.8	(11.7)	▲ 28.9	8.6	▲ 9.4	27.1	▲ 7.9
R 04. 08 (n=390)	0.3	(▲ 0.5)	▲ 10.6	6.6	▲ 7.4	31.5	▲ 6.1
R 04. 11 (n=379)	4.2	(3.9)	▲ 14.1	16.6	▲ 8.5	40.7	▲ 8.2
R 05. 02 (n=391)	▲ 3.8	(▲ 8.0)	▲ 14.0	5.3	▲ 18.2	33.3	▲ 8.4
R 05. 05 (n=396)	0.8	(4.6)	▲ 19.2	3.5	▲ 10.6	32.1	▲ 8.5
前回調査比	-	-	-	(▲ 1.8)	(7.6)	(▲ 1.2)	(▲ 0.1)
先行き見通し	▲ 7.1	-	-	▲ 5.8	▲ 16.2	33.3	▲ 13.8
今回調査比	(▲ 7.9)	-	-	(▲ 9.3)	(▲ 5.6)	(1.2)	(▲ 5.3)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

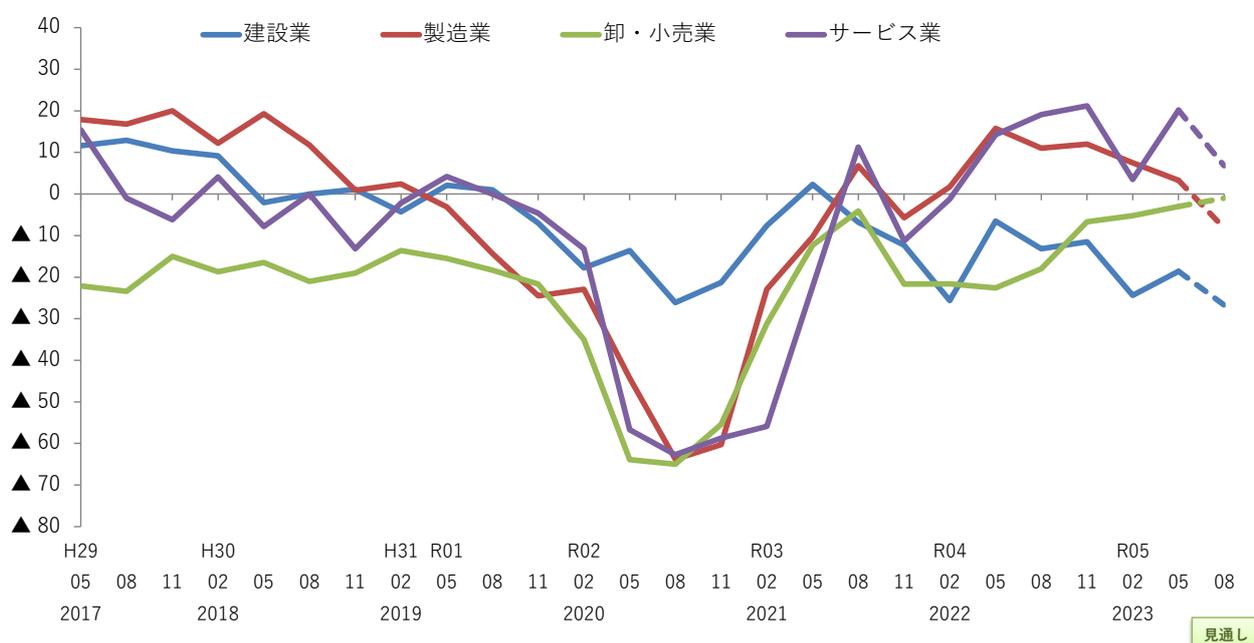
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、建設業が▲18.6（前回調査比 5.8 ポイント上昇）、製造業が 3.3（前回調査比 4.2 ポイント下落）、卸・小売業が▲3.0（前回調査比 2.2 ポイント上昇）、サービス業が 20.2（前回調査比 16.7 ポイント上昇）と、製造業は悪化となった一方、建設業、卸・小売業、サービス業は改善となった。

業況の先行き見通しは、建設業、製造業、サービス業で悪化、卸・小売業で改善の見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 05 (n=406)	0.8	▲ 6.5	15.8	▲ 22.6	14.3
R 04. 08 (n=390)	0.3	▲ 13.2	11.0	▲ 18.0	19.1
R 04. 11 (n=379)	4.2	▲ 11.5	12.0	▲ 6.7	21.2
R 05. 02 (n=391)	▲ 3.8	▲ 24.4	7.5	▲ 5.2	3.5
R 05. 05 (n=396)	0.8	▲ 18.6	3.3	▲ 3.0	20.2
前回調査比	(4.6)	(5.8)	(▲ 4.2)	(2.2)	(16.7)
先行き見通し	▲ 7.1	▲ 26.7	▲ 8.2	▲ 1.0	6.8
今回調査比	(▲ 7.9)	(▲ 8.1)	(▲ 11.5)	(2.0)	(▲ 13.4)

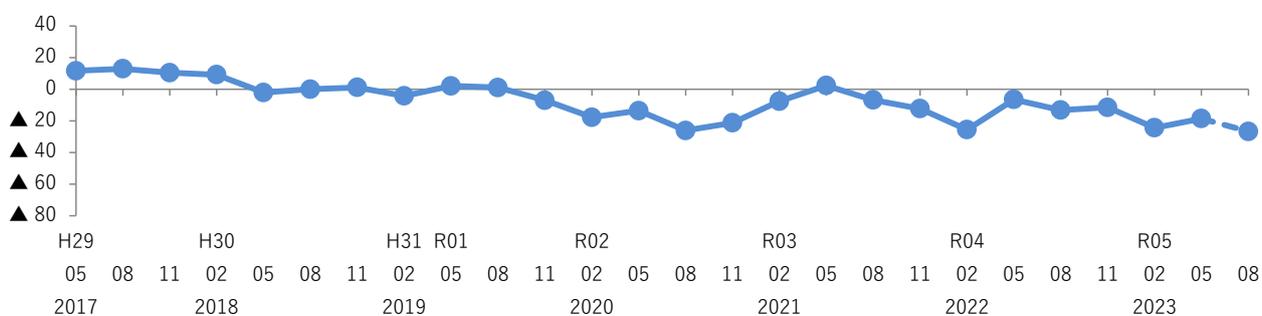
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

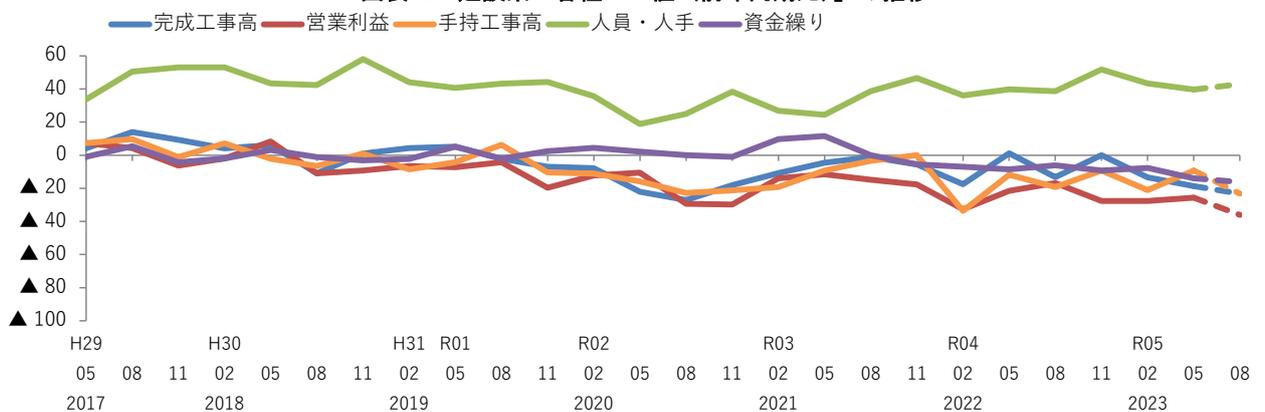
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲18.6（前回調査比 5.8 ポイント上昇）と、2 期ぶりに改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」と「資金繰り」は悪化となったものの、「営業利益」と「手持工事高」は改善となり、「人員・人手」はプラス幅が縮小した。各社のコメントから、資材価格や人件費の上昇による採算悪化、公共工事の減少などを背景に、収益環境は依然厳しい状況にあることがうかがえる。また、人手不足感が強まる中、新卒も含めて特に若手人材の確保が課題となっているとの内容が複数みられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲26.7（今回調査比 8.1 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 04. 05 (n=93)	▲ 6.5	(19.1)	▲ 41.8	1.1	▲ 21.5	▲ 11.8	39.8	▲ 8.6
R 04. 08 (n=83)	▲ 13.2	(▲ 6.7)	▲ 26.8	▲ 13.2	▲ 16.8	▲ 19.2	38.6	▲ 6.1
R 04. 11 (n=87)	▲ 11.5	(1.7)	▲ 22.9	0.0	▲ 27.6	▲ 9.2	51.7	▲ 9.2
R 05. 02 (n=90)	▲ 24.4	(▲ 12.9)	▲ 27.6	▲ 13.4	▲ 27.7	▲ 21.1	43.3	▲ 7.7
R 05. 05 (n=86)	▲ 18.6	(5.8)	▲ 36.6	▲ 18.6	▲ 25.6	▲ 9.3	39.6	▲ 13.9
前回調査比	-	-	-	(▲ 5.2)	(2.1)	(11.8)	(▲ 3.7)	(▲ 6.2)
先行き見通し	▲ 26.7	-	-	▲ 23.2	▲ 36.1	▲ 23.2	43.0	▲ 16.3
今回調査比	(▲ 8.1)	-	-	(▲ 4.6)	(▲ 10.5)	(▲ 13.9)	(3.4)	(▲ 2.4)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 資材全般に価格上昇がみられるが、価格転嫁が思うようにできず、厳しい状況にある。山形県、山形市とも公共投資が少なく、業界全般に仕事量が不足気味になると思われる。(村山南)
- 材料・人件費等がすべて値上がりしているが、顧客へ価格の割り増しはなかなか厳しい状況にある。(村山北)
- 燃料費、電力費の高騰が続いており、利益を圧迫している。6月以降、電力費がさらに上がる見込みだが、有効な対応策がなく苦慮している。(最上)
- 国や自治体の補助金等を活用して個人宅のリフォーム工事、中古物件のリフォームが多いように思う。(置賜)
- 工事量は昨年同期等とほぼ変わらない状態ではあるが、資材価格の高騰や油類の高騰が利益確保に厳しく影響している。(庄内田川)
- 公共・民間のどちらも投資が減少しているのに加え、物価上昇が悪影響を及ぼしている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

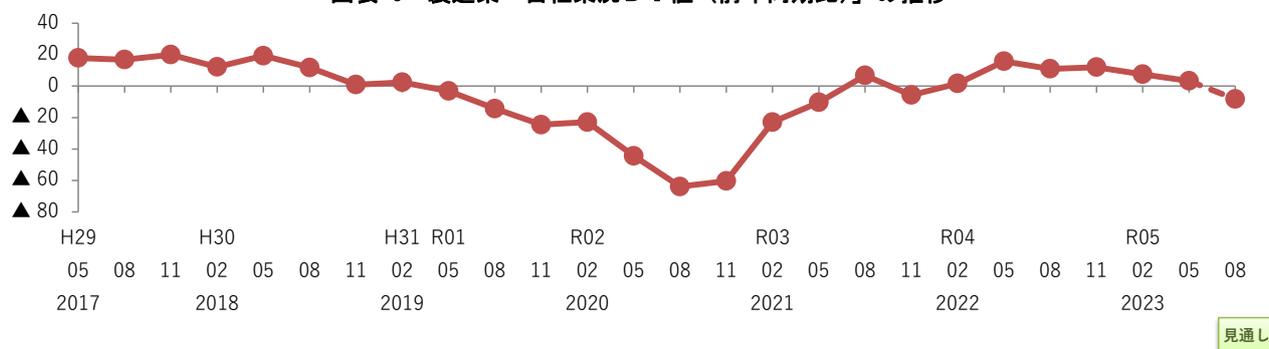
- 公共工事発注物件が少なく、手持工事が減少している。収益環境は厳しい状況が続く。人手不足もあり、見通しは厳しい。(村山南)
- 民間の顧客からの発注は例年並みだが、公共工事等の大きな工事はほぼ見込みがない。(村山北)
- 受注や人材確保のために、ホームページやSNSの利用及びリニューアル等をしているが、なかなか難しい。(村山北)
- 今期は完工高、利益ともに増加した。来期は完工高の減少が予想される。(最上)
- 人材の流出防止、新規従業員の確保、インターンシップ受入による人材確保に取り組む。(置賜)
- 置賜地域全体で考えた場合、仕事はあるが人手不足で受注ができない状況が考えられる。(置賜)
- 労働者不足が顕著になると思われる。(庄内田川)
- 職人不足のため、機械稼働率を上げることが大事になってくる(庄内飽海)

② 製造業

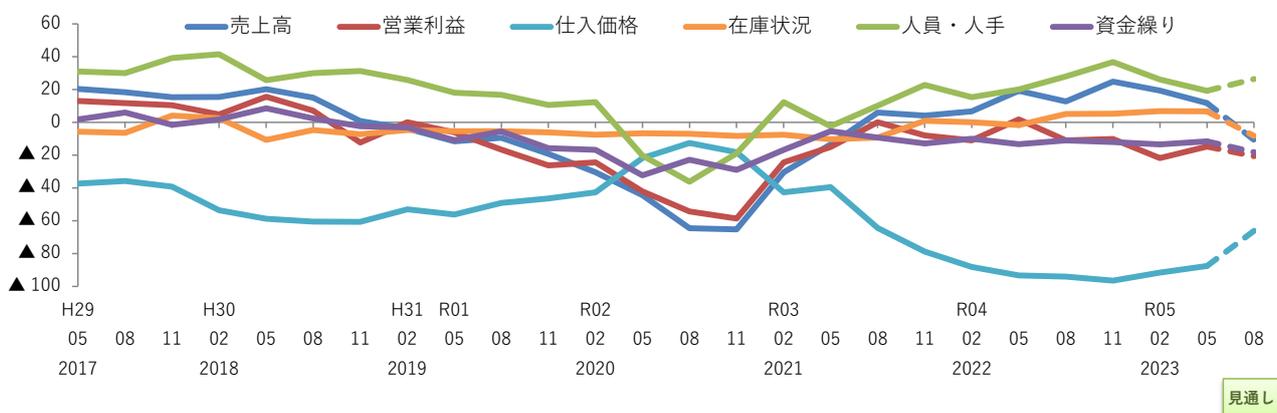
「自社の業況DI値（前年同期比）」は3.3（前回調査比4.2ポイント下落）と2期連続で悪化となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」は悪化、「営業利益」「仕入価格」「資金繰り」は改善、「在庫状況」はほぼ横ばいとなり、「人員・人手」はプラス幅が縮小した。各社のコメントから、一部の輸入原材料においては値上がりで一服感がみられるものの、引き続き仕入価格、電気料金、輸送費などのコスト上昇が大きな負担となっている状況がうかがえた。半導体関連では、受注減少の影響が色濃くあらわれ、弱含みの動きとなっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲8.2（今回調査比11.5ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測	今回調査比						
R 04. 05 (n=120)	15.8	(14.1)	▲ 17.8	19.2	1.7	▲ 93.4	▲ 1.7	20.0	▲ 13.3
R 04. 08 (n=118)	11.0	(▲ 4.8)	▲ 5.9	12.7	▲ 11.0	▲ 94.1	5.1	28.0	▲ 11.0
R 04. 11 (n=117)	12.0	(1.0)	▲ 10.2	24.8	▲ 10.2	▲ 96.6	5.2	36.7	▲ 12.0
R 05. 02 (n=119)	7.5	(▲ 4.5)	▲ 2.6	19.3	▲ 21.8	▲ 91.6	6.7	26.1	▲ 13.4
R 05. 05 (n=121)	3.3	(▲ 4.2)	▲ 18.5	11.6	▲ 14.8	▲ 87.6	6.6	19.1	▲ 11.6
前回調査比	-	-	-	(▲ 7.7)	(7.0)	(4.0)	(▲ 0.1)	(▲ 7.0)	(1.8)
先行き見通し	▲ 8.2	-	-	▲ 10.8	▲ 20.7	▲ 66.1	▲ 8.3	26.4	▲ 18.2
今回調査比	(▲ 11.5)	-	-	(▲ 22.4)	(▲ 5.9)	(21.5)	(▲ 14.9)	(7.3)	(▲ 6.6)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 食品業界では、鳥インフルエンザの影響による液卵の供給不足と輸入餌代高騰によって、卵の仕入れ価格が昨年比 2 倍となり、厳しい状況が年内は続くと思われる。(村山南)
- 昨年の秋口から半導体業界の設備投資が踊り場となっている。受注は減少傾向にあり、想定以上に長期化しているように感じる。(村山北)
- エネルギー、鋼材、副資材価格の上昇が続いている。今期の需要は前期並みと予想されている。(最上)
- 半導体・自動車・情報通信機器関連は厳しいが、医療・重電・インフラ関連は堅調である。(置賜)
- 原材料の価格は落ち着いてきているが、副資材等の値上げは続いており、電気代も高止まりして収益を圧迫している。(庄内田川)
- セメントをはじめとする資材の高騰はまだ続く様子で、価格転嫁できるかが課題である。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 慢性化した人手不足に、ベトナムから等、特定技能実習生の確保をこれまで以上に推進する予定である。(村山南)
- 新型コロナウイルスへの感染拡大防止策終了などにより売り上げ増が見込まれるが、原材料や資材、燃料、電力などの価格上昇によって、経営状況はそれほど改善しない見込みである。(村山北)
- 現状売上高は前年並みと低迷しているが、見積り件数は増加しており、第 2 四半期以降、コスト上昇分の価格転嫁が認められ、収益向上の見通しとなっている。(最上)
- 労働力確保が困難になることに備えて、省力化、製造効率化を図る設備投資や労働環境改善のための設備投資を行う。(置賜)
- 人事評価制度や軽微な設備投資、レイアウト改善、生産方法の見直し等による生産性向上に取り組む。(庄内田川)
- 受注が減っていて、在庫が減らない。仕入単価も上がっていて、粗利が悪くなっている。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

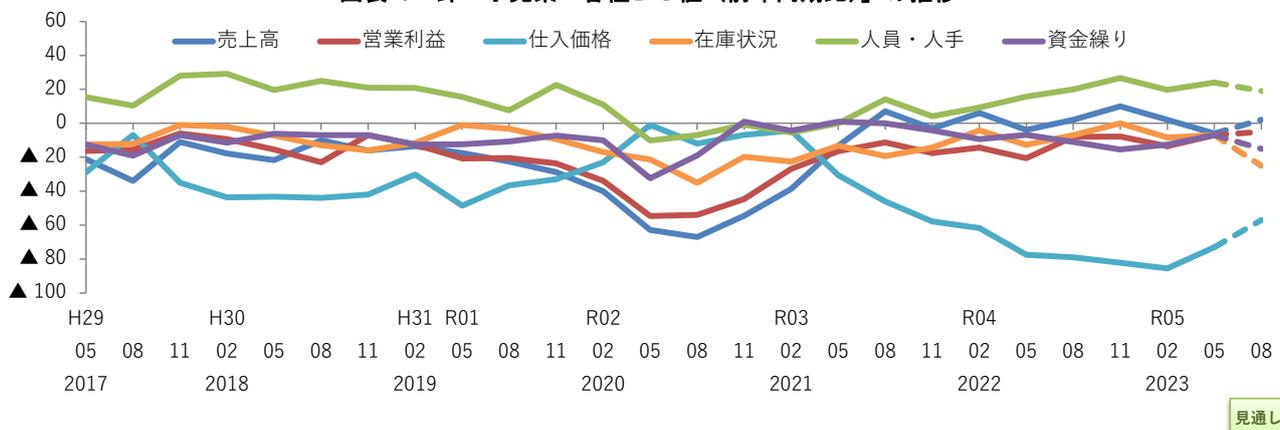
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲3.0（前回調査比 2.2 ポイント上昇）と 4 期連続で改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「営業利益」「仕入価格」「在庫状況」「資金繰り」の 4 項目が改善となった一方、「売上高」は悪化となり、DI 値がマイナスに転じた。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントをみると、家電や雑貨の販売業などでは、物価上昇に起因する買い控えの影響を受けて業況は厳しいとする内容が目立った。一方で、飲食業関連やアパレル販売などからは、経済正常化に伴う消費の回復が感じられるようになったとするコメントが寄せられ、好調な動きがみられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲1.0（今回調査比 2.0 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 04.05 (n=102)	▲ 22.6	(▲ 1.0)	▲ 33.0	▲ 3.9	▲ 20.6	▲ 77.4	▲ 12.7	15.7	▲ 6.8
R 04.08 (n=100)	▲ 18.0	(4.6)	▲ 17.7	2.0	▲ 8.0	▲ 79.0	▲ 7.0	20.0	▲ 11.0
R 04.11 (n=90)	▲ 6.7	(11.3)	▲ 20.0	10.0	▲ 7.8	▲ 82.2	0.0	26.6	▲ 15.5
R 05.02 (n=96)	▲ 5.2	(1.5)	▲ 22.3	2.1	▲ 13.5	▲ 85.5	▲ 8.4	19.7	▲ 12.5
R 05.05 (n=100)	▲ 3.0	(2.2)	▲ 20.8	▲ 6.0	▲ 7.0	▲ 73.0	▲ 7.0	24.0	▲ 7.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 8.1)	(6.5)	(12.5)	(1.4)	(4.3)	(5.5)
先行き見通し	▲ 1.0	-	-	2.0	▲ 5.0	▲ 57.0	▲ 25.0	19.0	▲ 15.0
今回調査比	(2.0)	-	-	(8.0)	(2.0)	(16.0)	(▲ 18.0)	(▲ 5.0)	(▲ 8.0)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 原材料の価格上昇は、まだ落ち着いていない。さらにエネルギーコストの上昇が見込まれており、生産コストへの影響が避けられないが、リアルタイムでの価格改定ができない可能性がある。(村山南)
- 書籍販売業界全体では、低迷から抜けきれない状況が長く続いている。諸物価高騰や配送料の値上げ等の影響で、書籍・雑誌ともに発行点数は減少しているものの単価は上がっており、来店客数の減少がそのまま売り上げ金額に反映されている。(村山南)
- 飲食業については若干の回復が感じられる。(村山北)
- 個人客は戻りつつあり、団体客がこれからどこまで戻るかにより、今後の業況に大きく影響を及ぼす。(村山北)
- 物価上昇が石油製品業界の購買意欲低下につながっている。(最上)
- 石油代、ガソリン代の値上げで加工代が上昇している。(置賜)
- 引き続き原材料価格の値上がりや品不足が続くと思われる。(庄内田川)
- 石油製品の販売単価は安定しているが、ハイブリット EV 車両の増加によりガソリン販売量が減少している。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

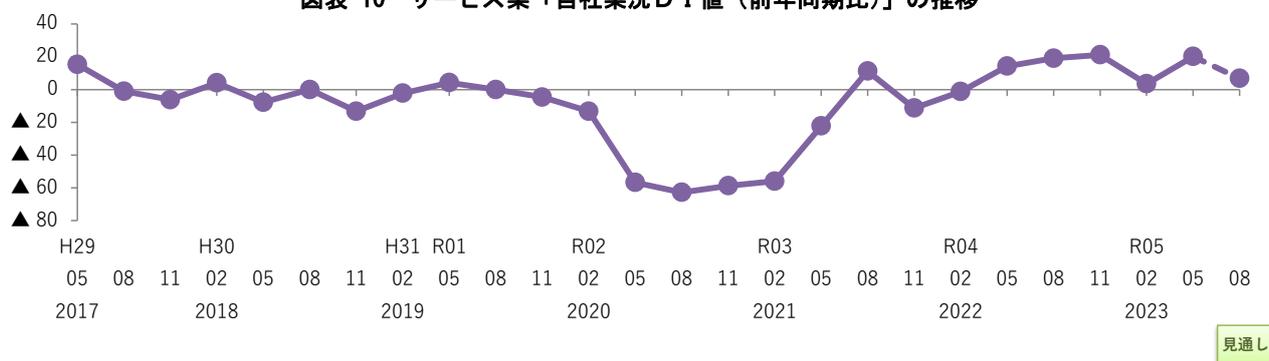
- 売り上げに関しては、新規得意先へのアプローチの実践、並びに既存の得意先への営業戦略の見直しを実施中である。インボイス制度・電子帳簿保存法に向けた社内の体制づくりを実践していく。(村山南)
- 輸送コストの上昇、原価の変動で先行きが見えない。(村山北)
- 現行業務の省力化を進める。(最上)
- 原油先物価格も現在は落ち着いて 80\$/バーレル前後で推移している。この秋ぐらいまでは、急激な価格の動きは少ないと思われる。(置賜)
- 都市ガスの原料である、LNG、LPG の仕入れ価格の高止まりが続く見込みである。(庄内田川)
- 前年同期よりは上向き傾向で売上高は推移すると思われるが、仕入価格や物価上昇の影響で営業利益は下向き傾向になると思われる。(庄内飽海)

④ サービス業

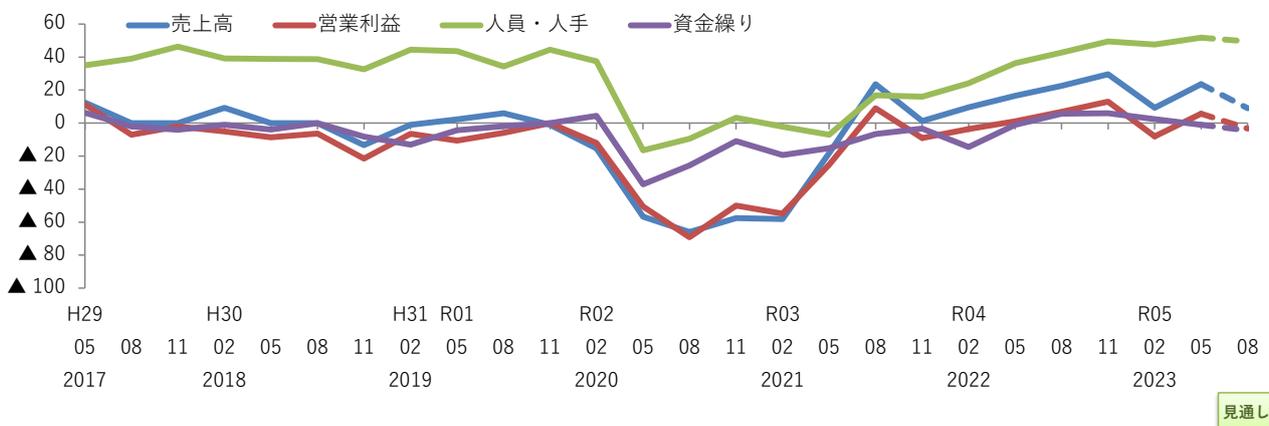
「自社の業況DI値（前年同期比）」は20.2（前回調査比16.7ポイント上昇）と2期ぶりの改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」と「営業利益」は改善、「資金繰り」は悪化となり、「営業利益」はDI値がプラスに、「資金繰り」はDI値がマイナスに転じた。「人員・人手」は2期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントによると、宿泊業や旅客運送業では、原材料費や光熱費等の高騰が経営を圧迫している状況は続いているものの、インバウンドを始めとする旅行需要増加の動きとともに、業況回復への期待感がみられる。また、運送業では総じてドライバー不足が進んでおり、深刻な状況となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が6.8（今回調査比13.4ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 04. 05 (n=91)	14.3	(15.5)	▲ 26.6	16.5	1.1	36.3	▲ 1.1
R 04. 08 (n=89)	19.1	(4.8)	7.7	22.5	6.8	42.7	5.6
R 04. 11 (n=85)	21.2	(2.1)	▲ 4.5	29.5	12.9	49.4	5.9
R 05. 02 (n=86)	3.5	(▲ 17.7)	▲ 7.1	9.3	▲ 8.1	47.6	2.4
R 05. 05 (n=89)	20.2	(16.7)	0.0	23.6	5.6	51.7	▲ 1.1
前回調査比	-	-	-	(14.3)	(13.7)	(4.1)	(▲ 3.5)
先行き見通し	6.8	-	-	9.0	▲ 3.4	49.4	▲ 4.5
今回調査比	(▲ 13.4)	-	-	(▲ 14.6)	(▲ 9.0)	(▲ 2.3)	(▲ 3.4)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 主力の米や飲料缶の運送需要が増加しない。燃料高、電気料等のコストが増加し、営業利益の黒字化が難しい。ドライバー不足が深刻である。(村山南)
- 旅行需要、業務出張需要が旺盛になることが予想され、業績回復への期待感は大きい。(村山北)
- 廃棄物業界は、コロナウイルス感染症の規制緩和により経済活動が活発化しつつあることから上向き傾向ではあるが、物価上昇にともなう影響は強く、営業利益は圧縮される。(最上)
- 県全体ではインバウンド客の動きがあるようだが、当地区ではまだまだ動きは鈍いと感じている。(置賜)
- 物資・燃料の高止まりは変わらず経営を圧迫している。さらに 2024 年問題への対応が加わり、人材確保や業務の見直し等、取り組まなければいけない課題が山積している。(庄内田川)
- 原材料費の値上げが止まらず、自社販売商品をどうするか判断に迷う。値段をどこまで上げるか、マーケットの動向を注視している。(庄内飽海)
- 火力発電所の燃料である石炭が高騰し、再生可能エネルギーよりコスト高になったため、需給停止や出力抑制が行われ、石炭の消費が減少した。したがって、取扱貨物量が減少し減収減益となった。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 人手不足に備えて作業の効率化や負担軽減、福利厚生の充実などに取り組んでいる。(村山南)
- 業績回復に向かいつつあるが、電気料金に象徴される経費肥大により、収益面では厳しい局面が継続する。(村山北)
- 社会的な要請であるカーボンゼロの達成や SDGs への貢献に向け、検討や取り組みを進めている。(村山北)
- ホームページのリニューアルを計画的に進め、情報発信を強化していく。SNS を活用した情報発信に力を入れていきたい。(最上)
- 国土強靱 5 カ年加速化対策 (2021~2025) 以降の後継計画の動向が心配される。(庄内田川)
- 売り上げは伸びていくと思われるが、原材料、人件費ともに上がっているので、コロナ前と同じ内容では同じ利益は上げられない。(庄内飽海)

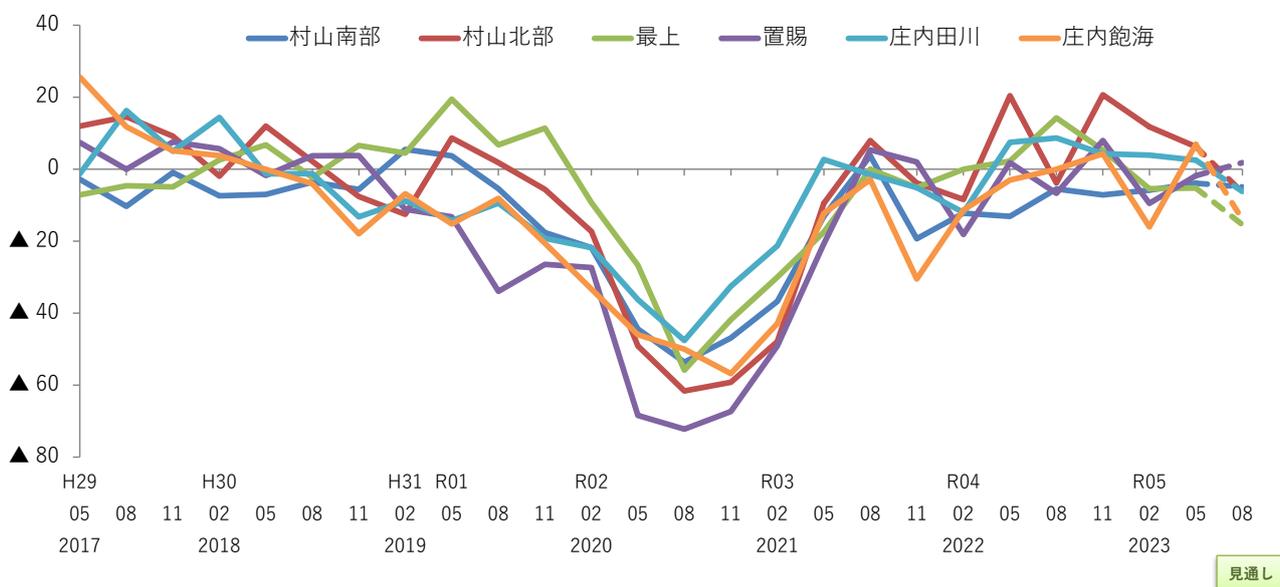
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲3.9（前回調査比1.9ポイント上昇）、村山北部が6.3（前回調査比5.5ポイント下落）、最上が▲5.2（前回調査比0.2ポイント上昇）、置賜が▲1.8（前回調査比7.7ポイント上昇）、庄内田川が2.5（前回調査比1.4ポイント下落）、庄内飽海が6.9（前回調査比22.9ポイント上昇）と、村山南部、置賜、庄内飽海は改善、村山北部と庄内田川は悪化、最上はほぼ横ばいとなり、庄内飽海はプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、置賜で改善が見込まれているものの、その他の5地域で悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 04. 05 (n=406)	0.8	▲ 13.1	20.4	2.3	1.8	7.5	▲ 3.0
R 04. 08 (n=390)	0.3	▲ 5.5	▲ 3.8	14.3	▲ 6.7	8.7	0.0
R 04. 11 (n=379)	4.2	▲ 7.1	20.7	5.3	8.0	4.3	4.3
R 05. 02 (n=391)	▲ 3.8	▲ 5.8	11.8	▲ 5.4	▲ 9.5	3.9	▲ 16.0
R 05. 05 (n=396)	0.8	▲ 3.9	6.3	▲ 5.2	▲ 1.8	2.5	6.9
前回調査比	(4.6)	(1.9)	(▲ 5.5)	(0.2)	(7.7)	(▲ 1.4)	(22.9)
先行き見通し	▲ 7.1	▲ 4.9	▲ 6.4	▲ 15.4	1.8	▲ 6.2	▲ 13.9
今回調査比	(▲ 7.9)	(▲ 1.0)	(▲ 12.7)	(▲ 10.2)	(3.6)	(▲ 8.7)	(▲ 20.8)

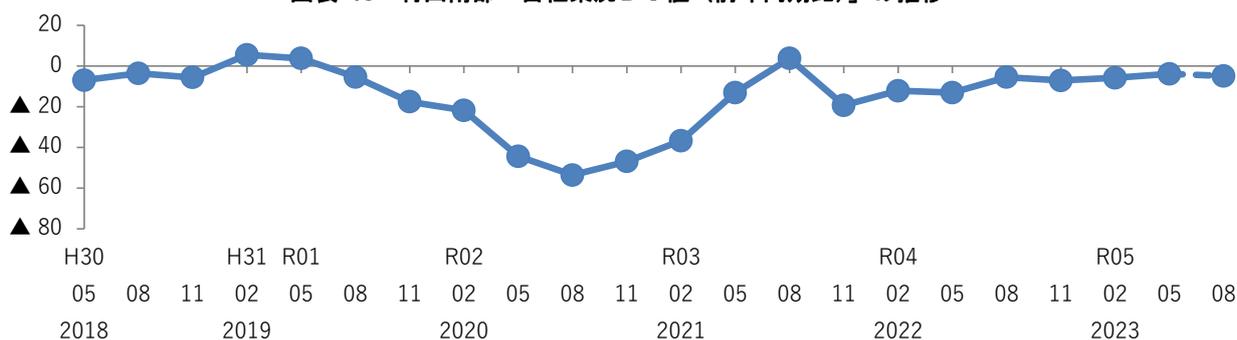
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲3.9（前回調査比 1.9 ポイント上昇）と小幅ながら 2 期連続の改善となった。業種別にみると、建設業とサービス業は大幅に改善、製造業と卸・小売業は悪化となっている。

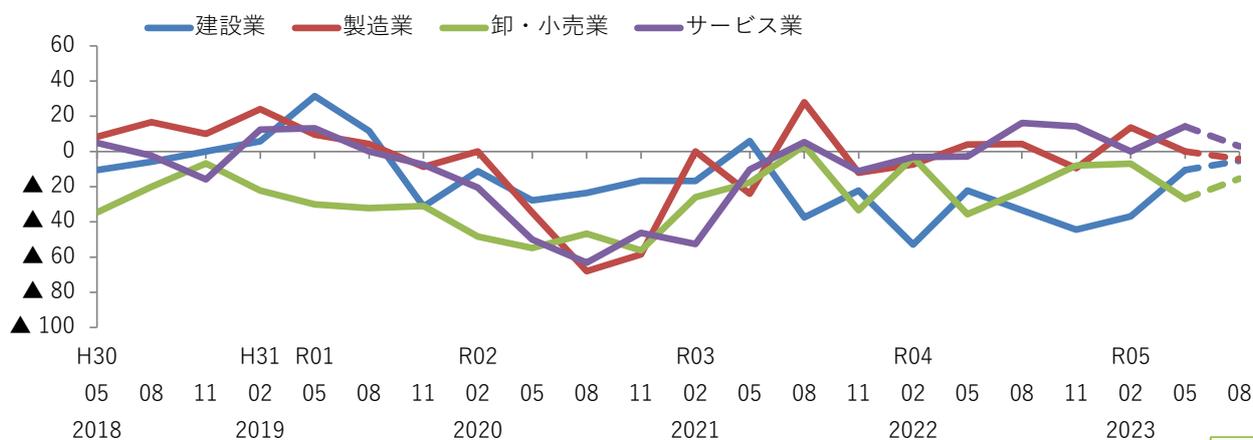
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲4.9（今回調査比 1.0 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04.05 (n=107)	▲ 13.1	(▲ 0.9)	▲ 27.1	▲ 22.2	4.0	▲ 35.7	▲ 2.8
R 04.08 (n=110)	▲ 5.5	(7.6)	▲ 19.7	▲ 33.3	4.2	▲ 22.5	16.2
R 04.11 (n=99)	▲ 7.1	(▲ 1.6)	▲ 20.0	▲ 44.4	▲ 9.5	▲ 8.0	14.3
R 05.02 (n=104)	▲ 5.8	(1.3)	▲ 20.2	▲ 36.9	13.7	▲ 6.9	0.0
R 05.05 (n=103)	▲ 3.9	(1.9)	▲ 21.1	▲ 10.5	0.0	▲ 26.9	14.3
前回調査比	-	-	-	(26.4)	(▲ 13.7)	(▲ 20.0)	(14.3)
先行き見通し	▲ 4.9	-	-	▲ 5.3	▲ 4.3	▲ 15.4	2.9
今回調査比	(▲ 1.0)	-	-	(5.2)	(▲ 4.3)	(11.5)	(▲ 11.4)

② 村山北部

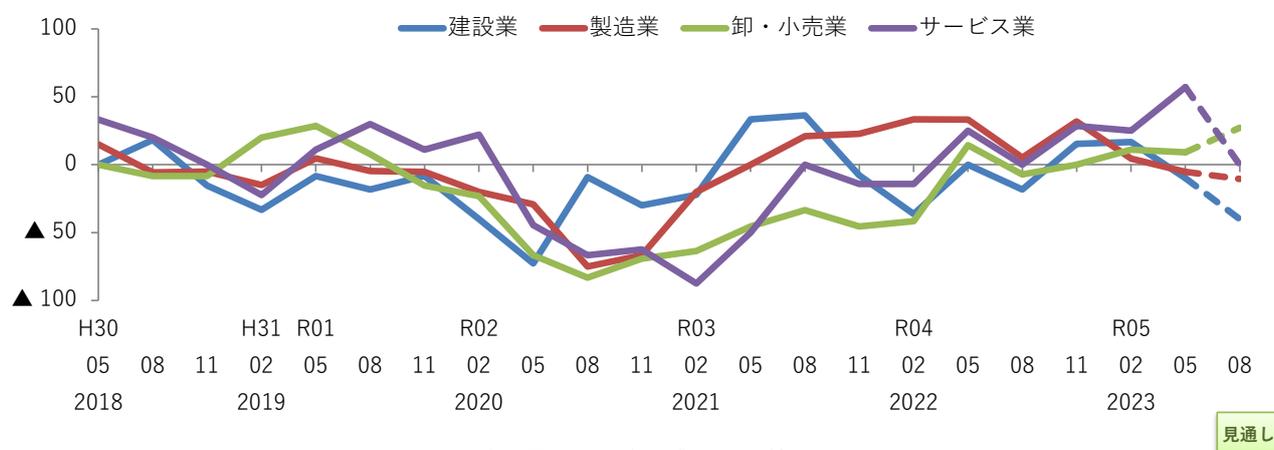
「自社の業況DI値（前年同期比）」は6.3（前回調査比5.5ポイント下落）と2期連続で悪化となった。業種別にみると、サービス業が大幅に改善となった一方、建設業、製造業、卸・小売業は悪化となっており、建設業と製造業はDI値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲6.4（今回調査比12.7ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 05 (n=54)	20.4	(28.8)	▲ 22.9	0.0	33.3	14.3	25.0
R 04. 08 (n=53)	▲ 3.8	(▲ 24.2)	11.1	▲ 18.2	5.2	▲ 7.2	0.0
R 04. 11 (n=53)	20.7	(24.5)	▲ 11.4	15.4	31.9	0.0	28.5
R 05. 02 (n=51)	11.8	(▲ 8.9)	▲ 9.4	16.7	4.5	11.1	25.0
R 05. 05 (n=47)	6.3	(▲ 5.5)	▲ 9.8	▲ 10.0	▲ 5.2	9.1	57.1
前回調査比	-	-	-	(▲ 26.7)	(▲ 9.7)	(▲ 2.0)	(32.1)
先行き見通し	▲ 6.4	-	-	▲ 40.0	▲ 10.5	27.3	0.0
今回調査比	(▲ 12.7)	-	-	(▲ 30.0)	(▲ 5.3)	(18.2)	(▲ 57.1)

③ 最上

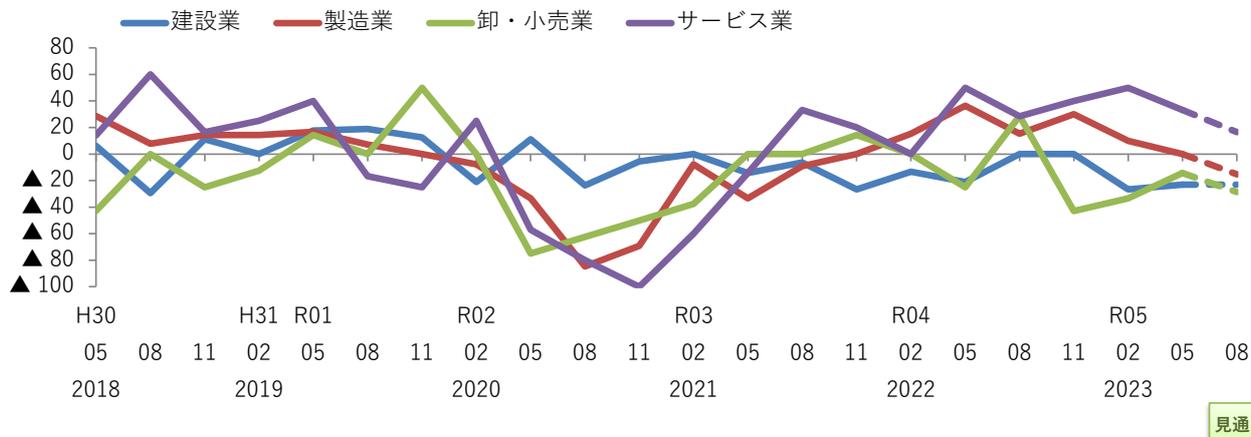
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲5.2（前回調査比 0.2 ポイント上昇）とほぼ横ばいの推移となった。業種別にみると、建設業と卸・小売業が改善となった一方、製造業とサービス業は悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲15.4（今回調査比 10.2 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 17 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

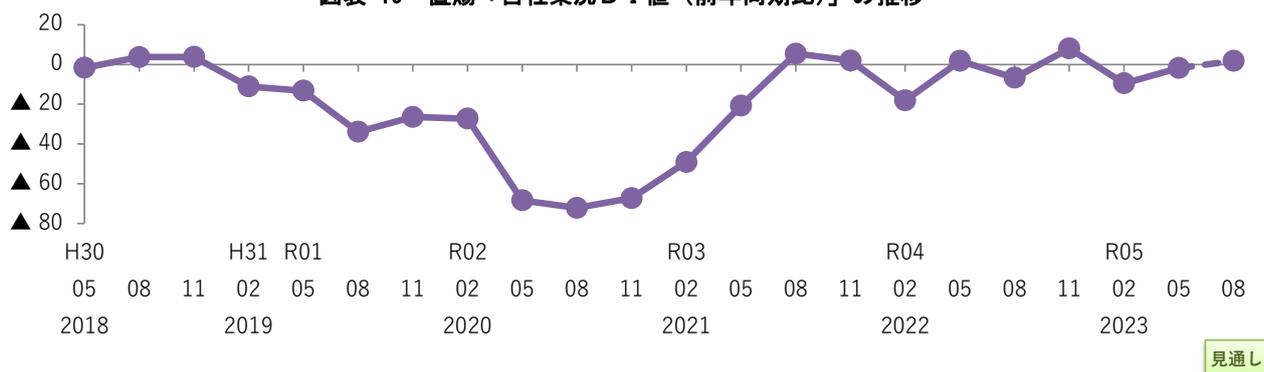
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 05 (n=44)	2.3	(2.3)	▲ 15.4	▲ 21.0	36.4	▲ 25.0	50.0
R 04. 08 (n=42)	14.3	(12.0)	▲ 6.8	0.0	15.4	28.6	28.5
R 04. 11 (n=38)	5.3	(▲ 9.0)	▲ 7.2	0.0	30.0	▲ 42.9	40.0
R 05. 02 (n=37)	▲ 5.4	(▲ 10.7)	▲ 23.6	▲ 26.7	10.0	▲ 33.3	50.0
R 05. 05 (n=39)	▲ 5.2	(0.2)	▲ 27.0	▲ 23.1	0.0	▲ 14.3	33.3
前回調査比	-	-	-	(3.6)	(▲ 10.0)	(19.0)	(▲ 16.7)
先行き見通し	▲ 15.4	-	-	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 28.6	16.6
今回調査比	(▲ 10.2)	-	-	(0.0)	(▲ 15.4)	(▲ 14.3)	(▲ 16.7)

④ 置 賜

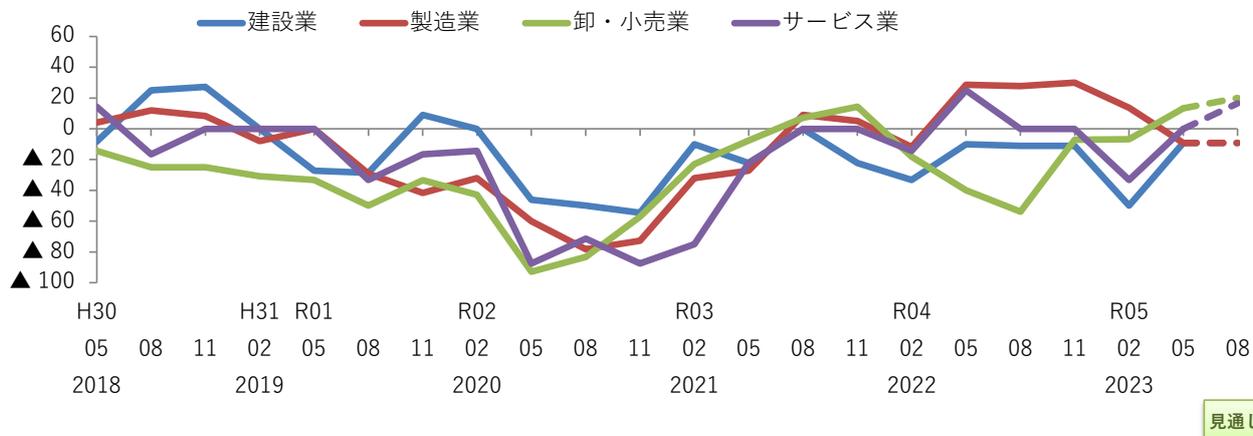
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲1.8（前回調査比 7.7 ポイント上昇）と 2 期ぶりに改善となった。業種別にみると、製造業で悪化となったものの、建設業、卸・小売業、サービス業で大幅な改善となっている。製造業はDI値がプラスに、卸・小売業はDI値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が 1.8（今回調査比 3.6 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04.05 (n=54)	1.8	(19.9)	▲ 43.1	▲ 10.0	28.6	▲ 40.0	25.0
R 04.08 (n=45)	▲ 6.7	(▲ 8.5)	▲ 25.9	▲ 11.1	27.8	▲ 53.8	0.0
R 04.11 (n=50)	8.0	(14.7)	▲ 13.3	▲ 11.1	30.0	▲ 7.2	0.0
R 05.02 (n=53)	▲ 9.5	(▲ 17.5)	▲ 12.0	▲ 50.0	13.6	▲ 6.7	▲ 33.3
R 05.05 (n=54)	▲ 1.8	(7.7)	▲ 26.4	▲ 9.1	▲ 9.1	13.3	0.0
前回調査比	-	-	-	(40.9)	(▲ 22.7)	(20.0)	(33.3)
先行き見通し	1.8	-	-	▲ 9.1	▲ 9.1	20.0	16.6
今回調査比	(3.6)	-	-	(0.0)	(0.0)	(6.7)	(16.6)

⑤ 庄内田川

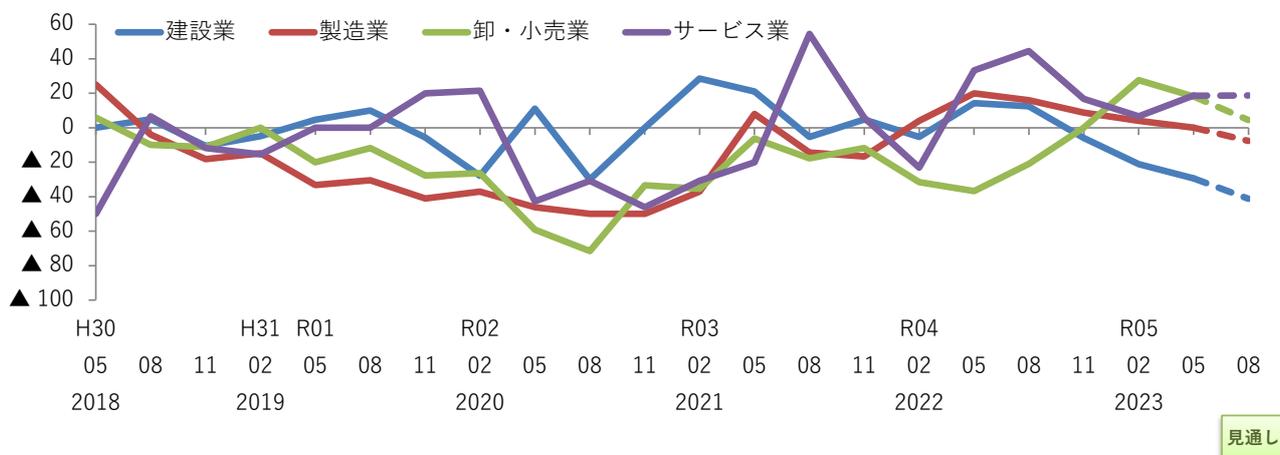
「自社の業況DI値（前年同期比）」は2.5（前回調査比1.4ポイント下落）と3期連続の悪化となった。業種別にみると、サービス業で改善したもの、建設業、製造業、卸・小売業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲6.2（今回調査8.7ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 21 庄内田川「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

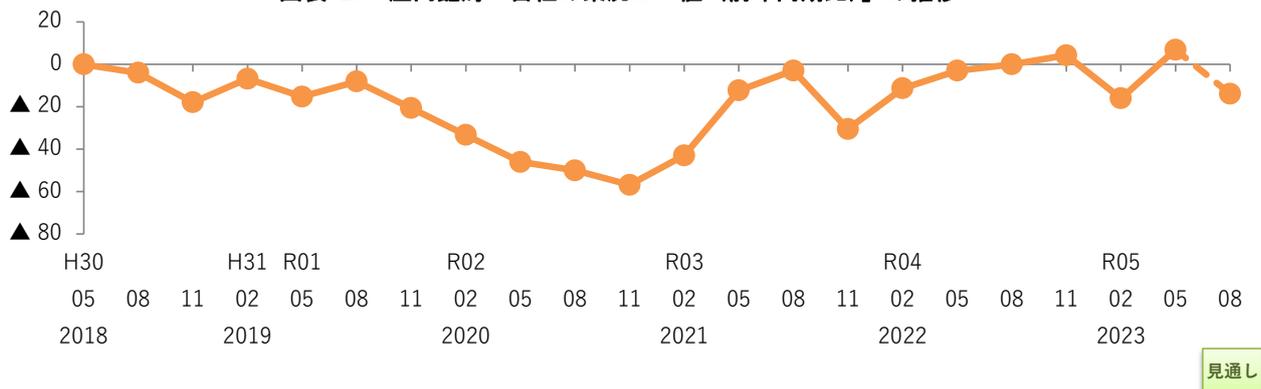
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04.05 (n=80)	7.5	(19.5)	▲ 40.0	14.3	20.0	▲ 36.8	33.3
R 04.08 (n=69)	8.7	(1.2)	0.0	12.5	16.0	▲ 21.0	44.5
R 04.11 (n=70)	4.3	(▲ 4.4)	▲ 11.6	▲ 5.9	8.7	0.0	16.7
R 05.02 (n=77)	3.9	(▲ 0.4)	▲ 2.8	▲ 21.1	4.0	27.7	6.7
R 05.05 (n=81)	2.5	(▲ 1.4)	▲ 13.0	▲ 29.4	0.0	18.2	18.7
前回調査比	-	-	-	(▲ 8.3)	(▲ 4.0)	(▲ 9.5)	(12.0)
先行き見通し	▲ 6.2	-	-	▲ 41.2	▲ 7.7	4.5	18.8
今回調査比	(▲ 8.7)	-	-	(▲ 11.8)	(▲ 7.7)	(▲ 13.7)	(0.1)

⑥ 庄内飽海

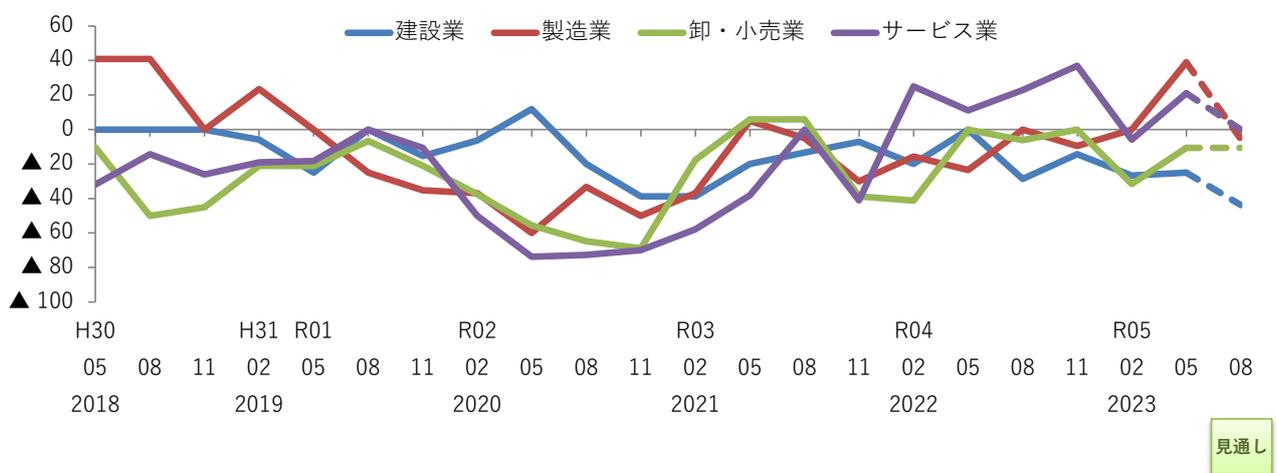
「自社の業況DI値（前年同期比）」は6.9（前回調査比22.9ポイント上昇）と2期ぶりの改善となった。業種別にみると、すべての業種で改善となっており、サービス業はDI値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲13.9（今回調査比20.8ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 05 (n=67)	▲ 3.0	(8.3)	▲ 22.5	0.0	▲ 23.5	0.0	11.1
R 04. 08 (n=71)	0.0	(3.0)	▲ 16.4	▲ 28.6	0.0	▲ 6.2	22.8
R 04. 11 (n=69)	4.3	(4.3)	▲ 14.1	▲ 14.3	▲ 9.5	0.0	36.9
R 05. 02 (n=69)	▲ 16.0	(▲ 20.3)	▲ 16.0	▲ 26.7	0.0	▲ 31.6	▲ 5.9
R 05. 05 (n=72)	6.9	(22.9)	▲ 20.3	▲ 25.0	38.9	▲ 10.6	21.0
前回調査比	-	-	-	(1.7)	(38.9)	(21.0)	(26.9)
先行き見通し	▲ 13.9	-	-	▲ 43.8	▲ 5.6	▲ 10.6	0.0
今回調査比	(▲ 20.8)	-	-	(▲ 18.8)	(▲ 44.5)	(0.0)	(▲ 21.0)

II. 景気の天気予報図

山 形 県


 今期の業況

➔


 来期の見通し

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$
				



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

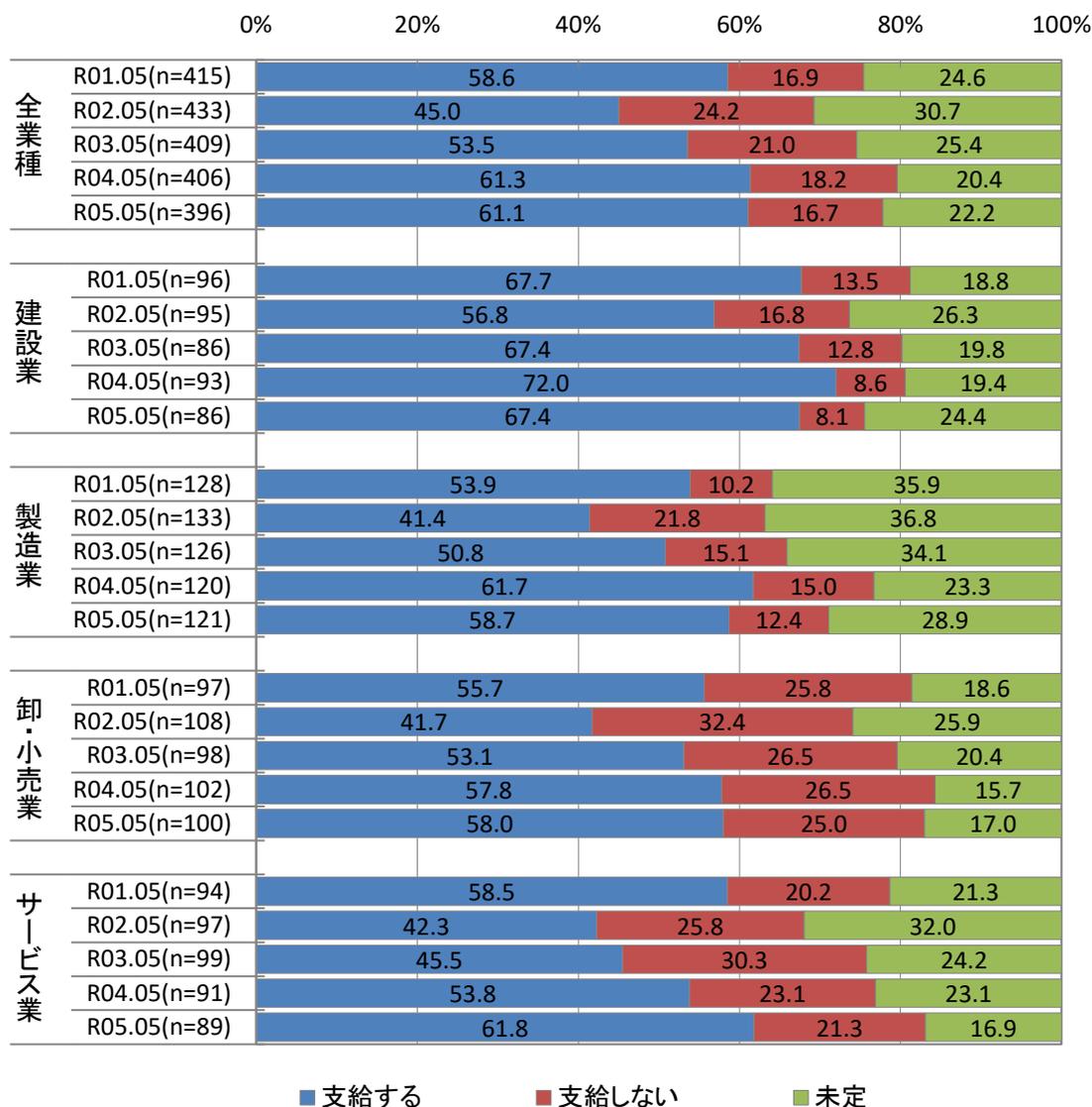
1. 夏季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

夏季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種で見ると「支給する」と回答した企業の割合は61.1%と、前年に比べ0.2ポイント低下したものの、引き続き6割を上回った。

業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が67.4%（前年比4.6ポイント低下）、製造業が58.7%（前年比3.0ポイント低下）、卸・小売業が58.0%（前年比0.2ポイント上昇）、サービス業が61.8%（前年比8.0ポイント上昇）となった。

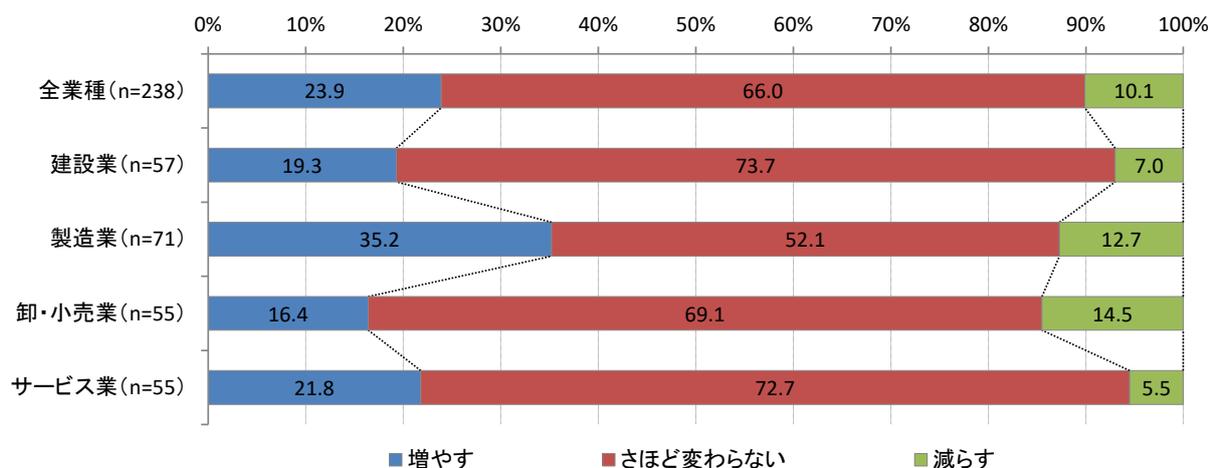
図表 25 業種別 夏季ボーナス支給動向の推移



今季「支給する」と回答した企業に対し、前年夏季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業が 66.0%と最も多く、次いで「増やす」が 23.9%、「減らす」は 10.1%となった。

業種別にみても、すべての業種で「さほど変わらない」が最も多くなっており、「増やす」と回答した企業では卸・小売業が 35.2%と、他の 3 業種に比べてやや高い割合となっている。

図表 26 業種別 夏季ボーナスを支給する企業の方針

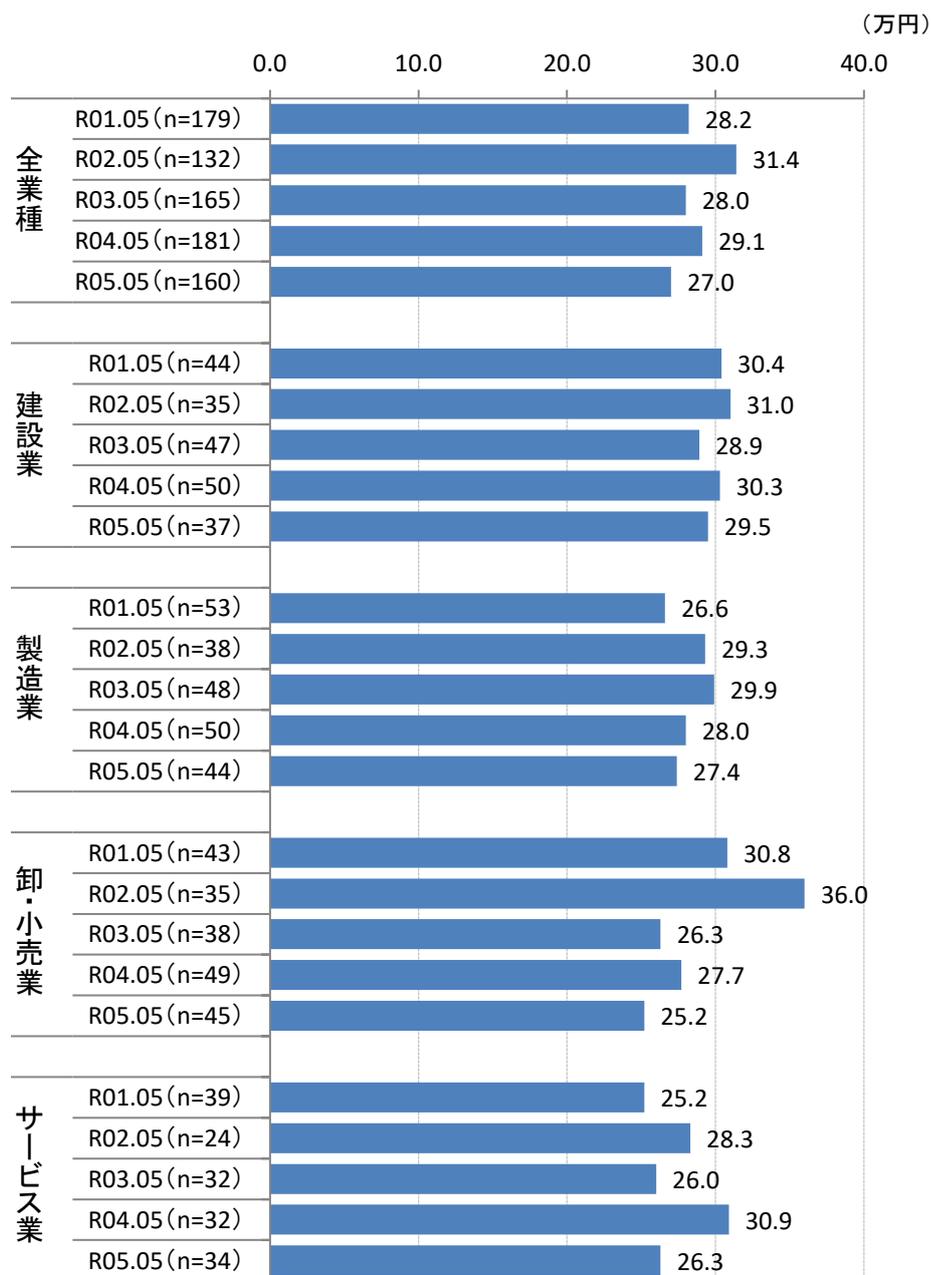


(2) 支給予定額

夏季ボーナスの支給予定額は、全業種平均で 27.0 万円となり、前年から減少となった。

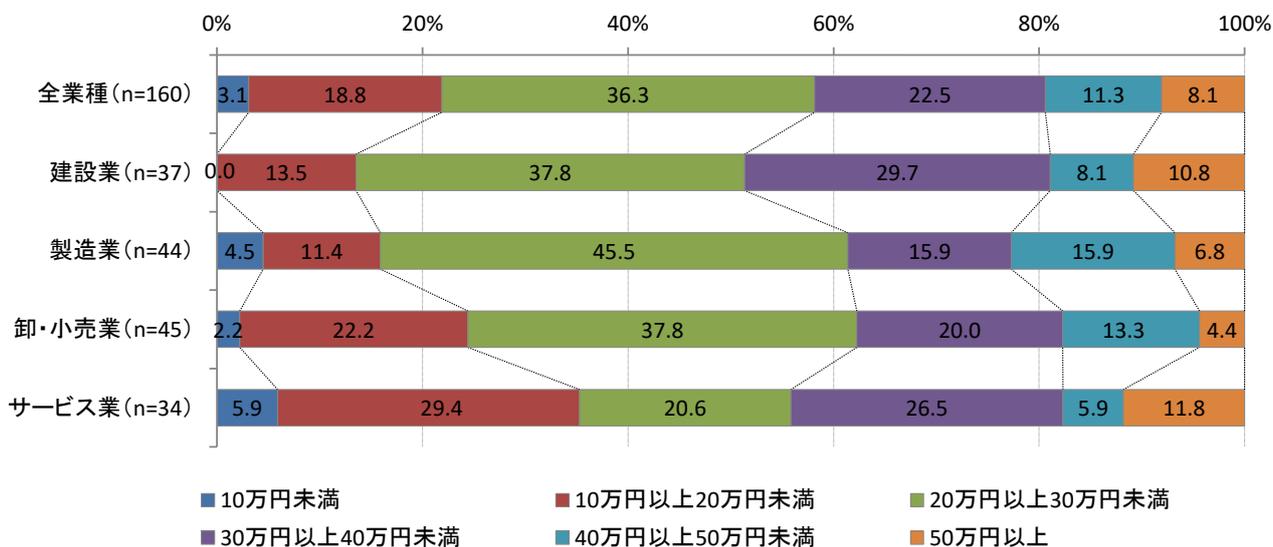
業種別にみると、建設業で前年比 0.8 万円減少、製造業で 0.6 万円減少、卸・小売業で 2.5 万円減少、サービス業で 4.6 万円減少と、すべての業種で減少となった。

図表 27 夏季ボーナスの平均支給予定額の推移

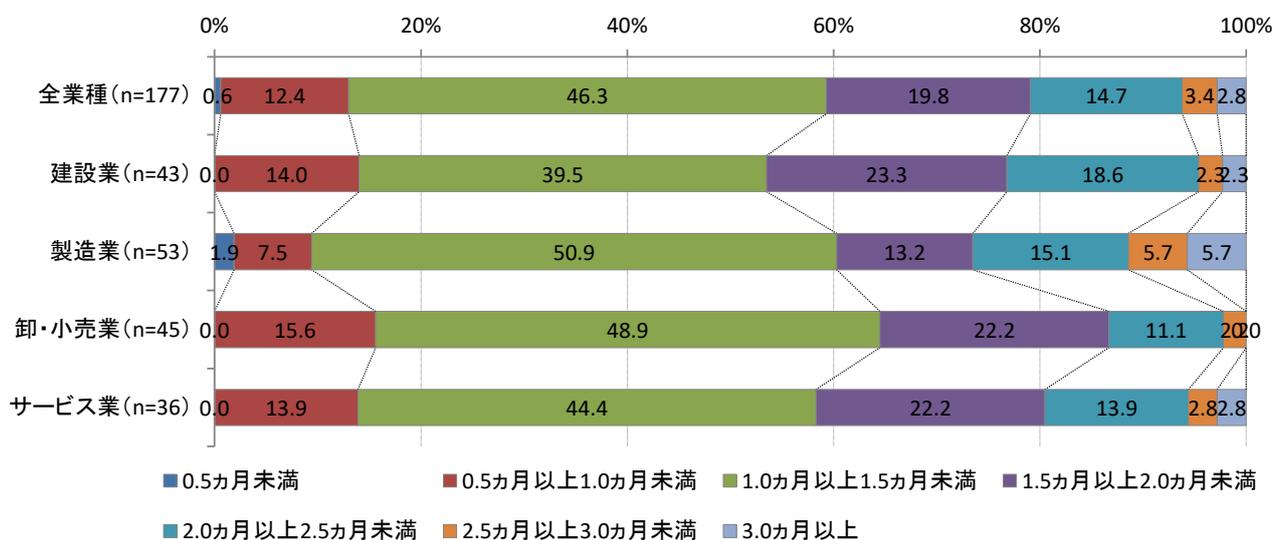


平均支給予定額は、全業種で見ると「20万円以上30万円未満」が最も多く、36.3%となっている。
平均支給予定月数は、全業種で見ると「1.0か月以上1.5か月未満」が最も多く、46.3%となっている。

図表 28 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定額



図表 29 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定月数

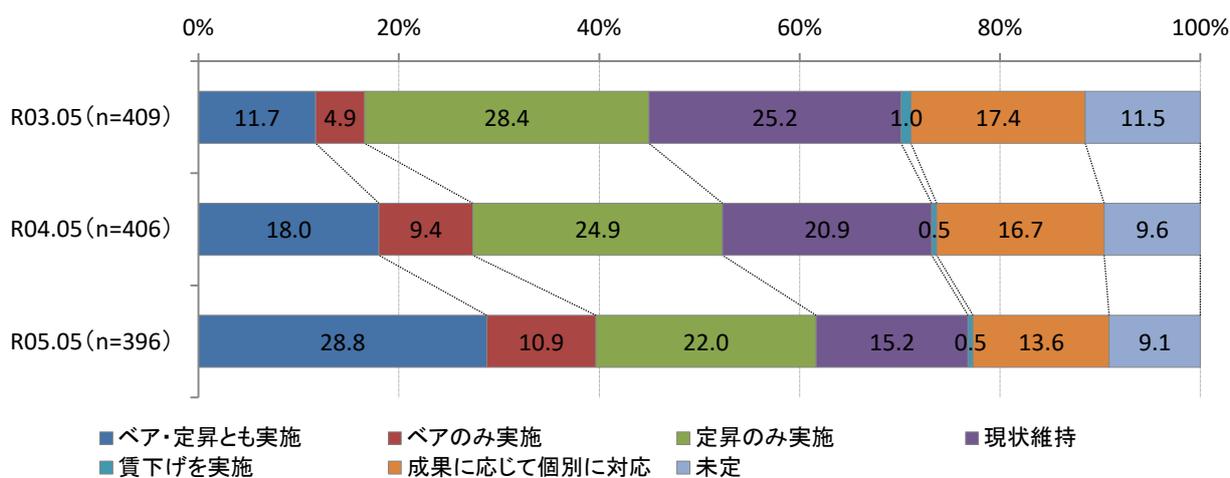


2. 春季以降の賃金改定動向について

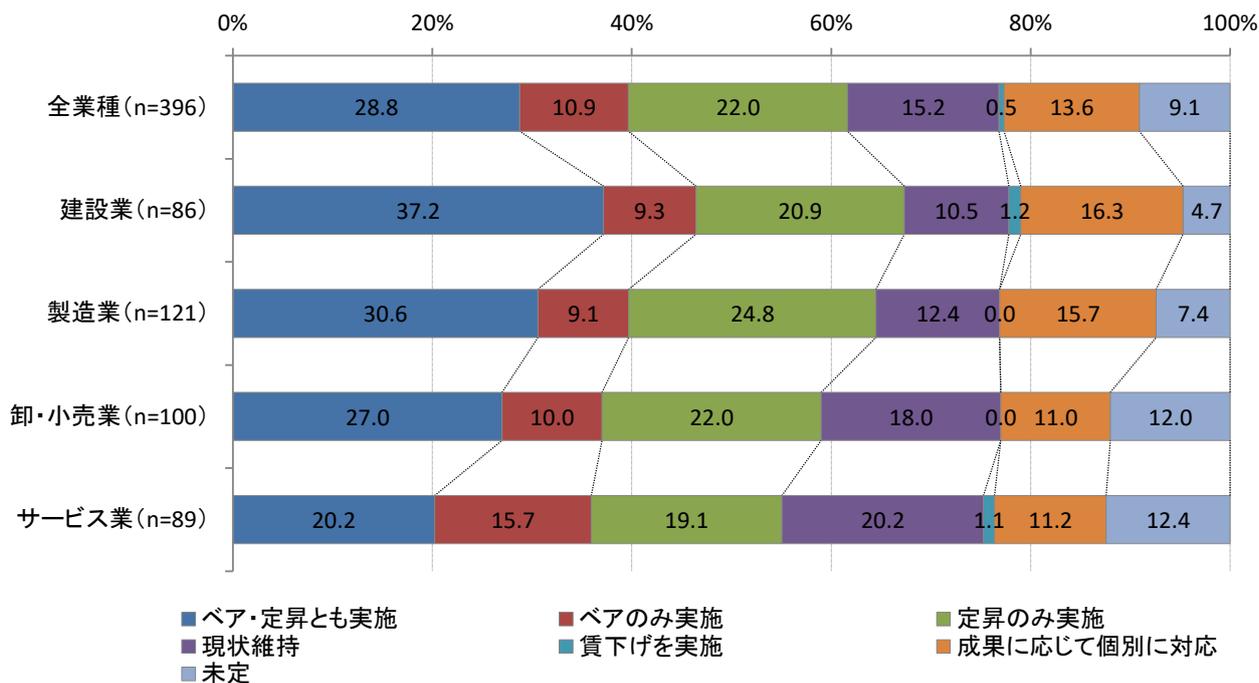
令和 5 年 4 月以降の賃金改定動向（ベースアップや定期昇給を実施する（した）か）を尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 61.7%と前年に比べて 9.4 ポイント上昇し、6 割台となった。

業種別にみると、賃上げを実施する（した）企業の割合は建設業で 67.4%と他業種に比べて最も高く、以下は製造業（64.5%）、卸・小売業（59.0%）、サービス業（55.0%）の順となっている。

図表 30 全業種 賃金改定動向の推移



図表 31 業種別 賃金改定動向

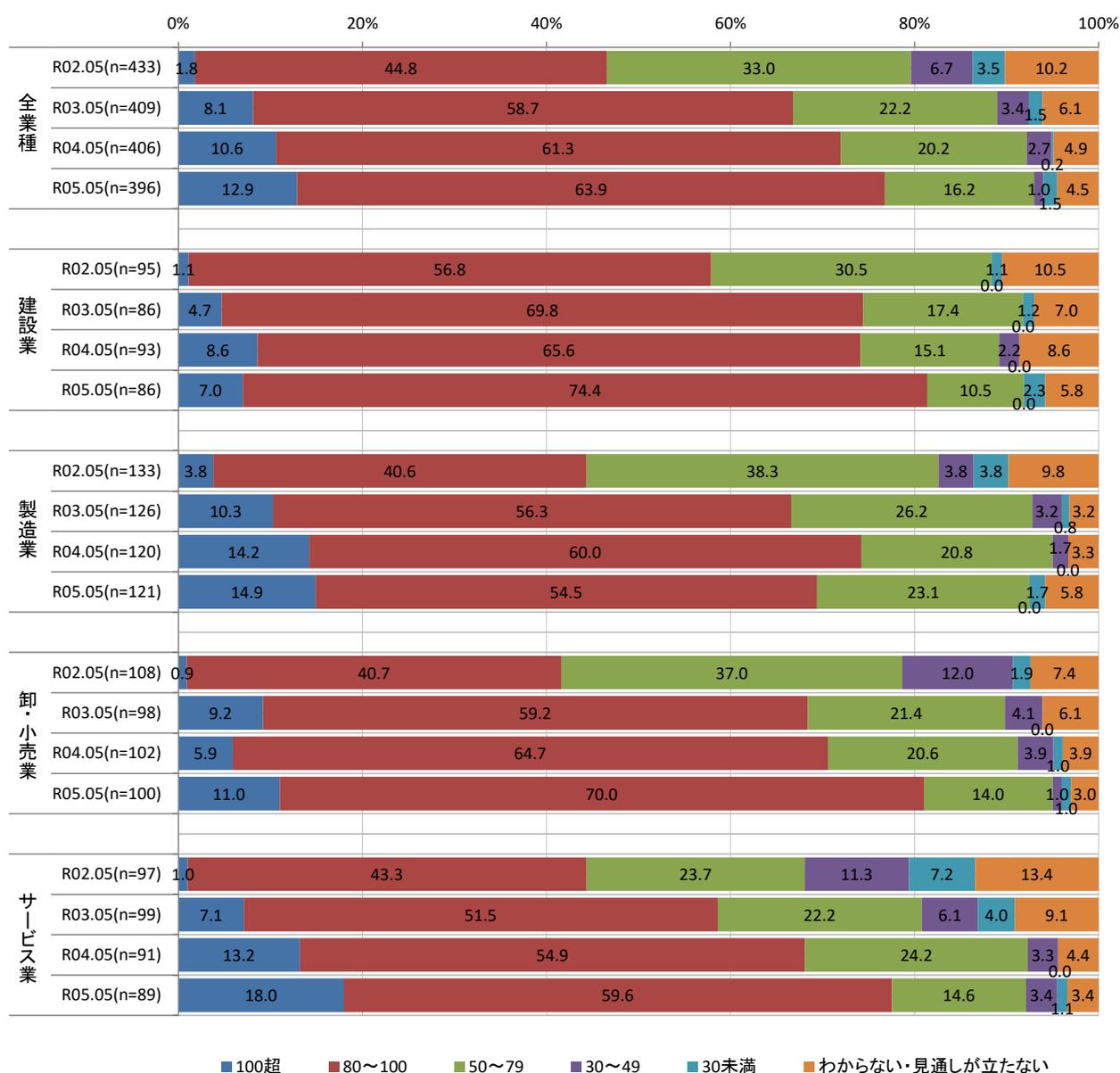


3. 新型コロナウイルス感染症の事業への影響について

新型コロナウイルス感染症の事業への影響について、事業活動全体における平常時（コロナ禍前）の経営状況を100とした場合の今年度の業績見通しをたずねたところ、全業種でみると「80～100」が63.9%と最も多く、次いで「50～79」が16.2%となっている。

業種別にみてもすべての業種で「80～100」が最も多くなっている。なお、80以上（「80～100」+「100超」）とする回答の割合は、前年と比べ製造業では低下となったものの、その他の3業種では上昇となった。

図表 32 業種別 新型コロナウイルス感染症の事業への影響（平常時の経営状況=100とした場合）



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	22	33	43	50	148
村山北部	20	30	17	16	83
最上	21	18	10	17	66
置賜	23	27	25	12	87
庄内田川	29	37	28	28	122
庄内飽海	32	32	31	36	131
合計	147	177	154	159	637

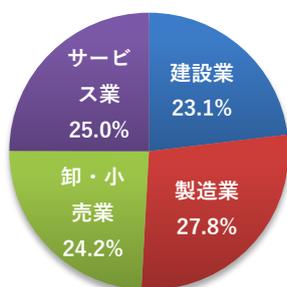
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	19	23	26	35	103
村山北部	10	19	11	7	47
最上	13	13	7	6	39
置賜	11	22	15	6	54
庄内田川	17	26	22	16	81
庄内飽海	16	18	19	19	72
合計	86	121	100	89	396

(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	86.4	69.7	60.5	70.0	69.6
村山北部	50.0	63.3	64.7	43.8	56.6
最上	61.9	72.2	70.0	35.3	59.1
置賜	47.8	81.5	60.0	50.0	62.1
庄内田川	58.6	70.3	78.6	57.1	66.4
庄内飽海	50.0	56.3	61.3	52.8	55.0
合計	58.5	68.4	64.9	56.0	62.2

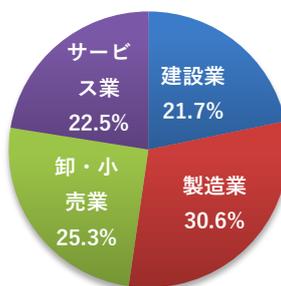
サンプル割合（業種別）



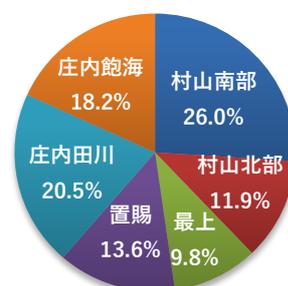
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 5 年 5 月 1 日(月)～16 日(火)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-2 1 荘銀山形ビル8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : <https://www.fir.co.jp/>